

領域・小問ごとの分析	対策の視点
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率は39%ときわめて低く理解は不十分である。明るい部分を外炎と考えている誤答が多い。 (2) ろうそくの炎と温度についてわかる。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率は86%とよく理解されている。 <p>23. 木片の乾留</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 木片の熱分解によって発生した気体がわかる。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率は85%とよく理解されている。 (2) 木片の熱分解による木炭の燃え方がわかる。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率77%と、ほぼ理解されている。 <p>24. 炎のでき方</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率は46%と低く、理解は不十分である。外炎のところから導いた場合(A)という誤答が目立つ。 	<p>つくりを理解させる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 実験観察を工夫するとともに、炎の各部分の温度が異なるのは、空気の供給量に関係することをとらえさせる指導が必要である。 ◦ 木片を熱分解したとき気体が出て、これが燃えることは確かめやすいが、乾留が十分でないと後に残ったものが木炭にまでならず、実験がうまくいかないことが多い。 実験方法を工夫して、現象をはっきりとらえさせるような指導をしたい。 ◦ 実験方法を工夫して、「炎のつくり」と「ろうそくの燃焼機構」を関連づけながら観察させ理解を図ることが必要である。
<p>領域 A (生物とその環境)</p> <p>25. 血液の働き</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 「窒素」「消化液」「養分」という誤答が見られ、正答率は60%である。 (2) 「酸素」「窒素」「消化液」という誤答が見られ、正答率は61%である。 (3) 「酸素」という誤答が多く、正答率は55%。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 全体的に理解が十分とはいえない。 <p>26. 腕の筋肉の働き</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率39%ときわめて低い。 <p>27. だ液の働き</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 正答率47%と低い。 「Aは青むらさき色になり、Bは変化しなかった」という誤答が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 関節には、働きの上で対になっている筋肉がある。その相互の伸び縮みによることを、模型などを用いて理解を図る。 ◦ でんぷんが変化することを実験で確かめさせる。十分に時間をかけて、正しい結果が出るよう指導するとともに、よう素液の色の変化の意味をはっきり定着させることが必要である。